

或は冬がこいなどという、防寒施設をつくる習慣がある。屋敷木は主に檜と杉で、下枝もあまり切り払わないで育ちにまかせ、その古木さが、屋敷の古さ、重々しさの伝統を誇示しているようにもみえる。この風も実は近年薄れ始めて、屋敷木、神社の森などの伐採されているが目立っている。

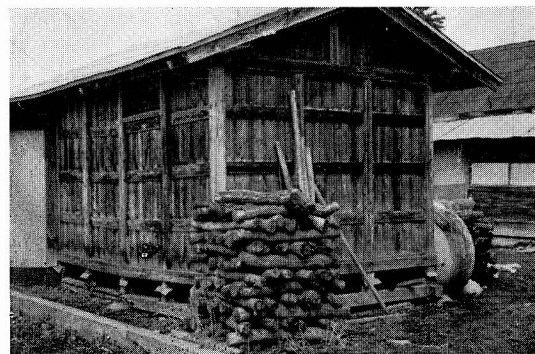
屋敷は低平であるから、母屋のほかに、農作業をする小屋とか、土蔵、物置き、大便秘所、これは下肥の貯蔵所を兼ねて、相当大きなものもある。蔬菜栽培地で、特に大きくし、又屋敷外の野良につくっている場合もある。せいろと呼ぶ糶貯蔵庫をもっている家もある。これは火災と夏の熱気を防ぐために、木造のせいろの形にしたり



せいろ(糶倉) (41.12.27)



もみぐら (42.1.2松野にて)



糶せいろ(糶の板倉)
下のねずみ返し(宮袋)